

平成7年度高鷲文化財保護協会通常総会 報告

令和7年5月25日(日)午後3時から町民センター第3研修室で見出しの会議が開かれた。最初西脇会長の挨拶後、来賓の永瀬高鷲振興事務所長の挨拶に続いて山下副会長の進行で会議が以下の内容で進められた。出席者は20名であった。

- ・令和6年度事業奉公について：全員賛成で承認
- ・令和6年度決算報告について：歳入280,049円、歳出278,364円、繰越金1,685円
監査報告、全員賛成で承認
- ・令和7年度事業計画案について：例年通り、全員賛成で承認
- ・令和7年度収支予算案について：歳入151,1770円、歳出151,770円、全員賛成で承認
- ・その他：①新入会員の紹介(上田悦子氏、岡田純次氏)
②会長交代(身体的都合) 水上精榮、副会長は平井道則
③『高鷲・鷲見郷物語』の販売値段は1000円とする。

水上精榮副会長の挨拶で閉会する。

水上精榮新会長の言葉

今年度高鷲文化財保護協会の会長を任せられることになり、プレッシャーを感じているところです。任期は西脇前会長の残り1年ということですが、会員の皆様のご理解とご協力を心よりお願いして進めて行きたいと思えますので何とぞ宜しくお願いします。

高鷲町は大日ヶ岳(二百名山)と鷲ヶ岳(三百名山)の麓で長良川と庄川の源流地域に位置し、豊かな自然に育まれたところです。現在、大日ヶ岳は国立公園、高鷲町は白山ユネスコエコパークと長良川の鮎世界農業遺産地域に認定されています。ひるがのの湿原植物群落は岐阜県の文化財に指定されています。また縄文時代の遺跡も数か所で発見されており、古い歴史は郡上市の文化財として認定されています。いうまでもありませんが地域の自然と歴史と文化はその地域の特有(唯一無二)のものであり、貴重であり、地域の宝物であると思いますので、それらを知ってもらい、活用し、次の世代へ残していくことは大変大事なことであると思っています。

今年度の高鷲文化財保護協会の活動としては、一昨年の鷲見氏鷲見郷一覧の作成、昨年のたかす鷲見郷物語の作成に続きまして、鷲見城址の整備を行い、登りやすく遺跡をみやすくしたいと思っています。さらに、城山から子供たちが、ふるさと高鷲の町全体を眺められるようにもしたいと思っています。

もうひとつは、かつての鷲見郷八ヶ村のすべてに白山神社があったように、高鷲は白山文化の町であるだろうと個人的には思っています。高鷲の各地域の白山信仰の歴史文化を調査・研究ができればいいと思っています。

皆様のご理解とご協力を心よりお願いいたします。



高鷲のスキー場

日本のスキーの歴史は、1911年（明治44）1月12日、日本ではじめてのスキー指導が上越市で行われました。指導したのは、当時のオーストリア・ハンガリー帝国の軍人で少佐のレルヒ（42歳）でした。その指導を受けたのは、大日本帝国陸軍の長岡外史が師団長をつとめる第13師団歩兵第58連隊の将校たちでした。スキーが日本に伝わる少し前、日本は大国・ロシアとの戦争に勝利し、その後さらに日本は軍隊の力を大きくするため、「師団」を増やしました。一方、江戸時代には越後1の城下町であった高田は、明治になると賑いを失いかけていました。そこで、高田の人たちは、師団を高田によんで活気づかせようしました。この運動は見事に成功し、第13師団が高田に置かれて町が活気づくとともに、日本で初めてのスキーを呼びこむことになったのです。

スキーの広まりは、レルヒがスキーを伝えた当時は、女性がスポーツをするなどということは考えられない時代でした。師団長・長岡外史は、女性がスキーをすれば、ますます国民に広まるだろうと考え、自分や将校たちの家族にスキーの練習をさせました。

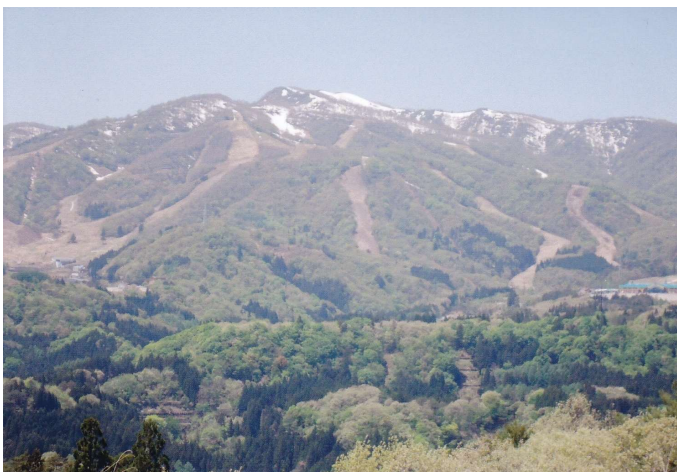
奥美濃のスキー場の草分けは、北濃村二日町住人三島富三が昭和5年に私費を投じてえ、二日町城西方の斜面を切り開いて作った城山スキー場でした。次いで昭和8年北濃村油坂スキー場が北濃村村長井上要一等の努力によって開設された。しかしこのスキーブームも戦争によって中断してしまいました。

戦後のスキーブームが到来すると、油坂スキー場は急激に発達し、奥美濃スキー場の代表格になりました。昭和28年には平家平スキー場、その後白鳥町には高平、白鳥、しらお、石徹白、白山の各スキー場が開設され、昭和59年には奥美濃連邦スキー王国を結成してスキー客の誘致に努めたが、積雪・雪質等の自然条件の悪さから高鷲村スキー場群に敗れました。

高鷲のスキー場の歴史は、戦後にはじまり、昭和29年に大日スキー場で競技会とスキー場開きが開催されたのが最初でした。その後蛭ヶ野の国道沿いに設備のないスキー場が設けられ、昭和31年には小中学校専用スキー場として正ヶ洞スキー場が開設され、昭和39年には一般スキー場となりました。同じ年にひるがの高原スキー場、鷲ヶ岳スキー場、大栄スキー場等が開設された。昭和47年には大日ヶ岳スキー場（現在ダイナランドスキー場）、平成元年には鷲見上野高原に郡上高原スキー場、平成11年には大日ヶ岳北麓を利用して高鷲スノーパークスキー場がオープンしました。こうして奥美濃地方のスキー場は観光資源の目玉として大きな役割を果たしています。

しかし近年の社会のニーズの変化やモタリーゼーションの発達、交通路の整備によって昔からの小規模スキー場は姿を消し、現在では名古屋資本や岐阜資本による鷲ヶ岳スキー場やダイナランド、スノーパークなど雪質の良く、交通の便が良く、設備の整ったスキー場が生き残っています。

鷲ヶ岳スキー場→



東海北陸自動車道ひるがのSAから見たダイナランドスキー場とスノーパークスキー場